

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山

活動エリア 愛媛県松山市（道後、花園町通り、松山市駅前、松山駅前など）

応募者 松山アーバンデザインセンター

活動概要

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山は、チーム毎に個別敷地の歴史的成り立ちを踏まえた実践的なまちづくり活動を学ぶ場である。さまざまな受講者同士が互いの敷地をモビリティで結びつけ、景観とツーリズムがどのような相互作用を生み出すのか、滞在時間、訪問頻度などの計量化によるまちの魅力再評価を通じて、今までにはないまちづくりを学ぶ工夫を施している。

松山アーバンデザインセンター（UDCM）が活動初期において取り組んだみんなのひろばの社会実験では、まずやってみることに重きを置いた教育プログラムを開発してきた。その経験を次の段階では、花園町通り、松山駅といった複数の敷地の市民教育プログラムへと発展させ、受講者のデザイン教育プログラムの深度化を目指した。今回のスクール活動では、プログラムデザインとその実践を、スマートシティ技術を用いて発展させ、松山の新たな移動風景づくりと学びの場づくりに取り組んでいる。

審査講評

松山アーバンデザインセンターの活動は、花園町通り改修や地域の景観資源を使いこなす多くの成果を生み出してきた。これらは公民学の連携を重ね、地域の仕組みとして定着させてきたことの賜物である。こうした活動を長期間維持するには、担い手の入れ替わりによる停滞の回避や、活動が途切れないようなプログラム企画がポイントになる。本活動ではディレクターを若手研究者や市派遣者が担い、高校生から大学院生の幅広い年代の若者が参加することによって、継続的な担い手確保と理解者支援者の拡大が実現している。それに加えて交通分析の可視化や最先端技術の導入など、他地域では一般的でない分野の研究者・技術者の参画により、まちづくりのイメージを変える戦略的な取り組みが行われている。松山では今後も重要な公共空間の整備が続く。アーバンデザイン・スマートシティスクールの活動が奏功し、市の骨格が豊かな空間として実現し、それを使いこなす市民の活動が継続していくことを期待する。（福井）



市民WSを経て整備された社会実験拠点施設「みんなのひろば」。



学生スタッフが運営を担った花園町通りでのプログラム実施（オセロやブロック遊び）の様子。



アーバンデザインスクール受講者によるプログラム実施（夕焼け鑑賞空間・機会の提供）の様子。



令和3年度スクール受講者による活動プランづくりに向けた意見交換の様子。